

《Seiryō's Global Commons: An Uncommon Experience》

留学を控えた私の心境の変化

音地 里咲[†]

入学当初, 将来英語が活かせるような仕事に就きたいという思いから, 漠然と留学がしたいと考えていた。しかし, 大学のガイダンスや先輩方の話から留学にも様々な形式があり, 何を目的とするかによってそれは変わってくるということを知った。入学当初の4月と半年が経った現在で心境の変化を考えると, 英語が話せるようになりたいという思いは変わっていないが, 話せるようになって何をするのかと考えたとき, ぼんやりとしか頭にイメージが浮かばなかったのを, それを見つけていこうと思うようになっていく。

私は, Ambassadorsという金沢星稜大学の国際交流団体を通して留学生と接する機会が多く, 留学生と話していくなかで, 自分のあたりまえがそうではなかったことに気づかされることもあり, 学ぶことも多い。言葉一つにしてもその違いに驚かされる。カナダや台湾など多くの国では, 「肉」といえば豚, 牛, 鶏はもちろん, 魚も「肉」という認識だということを知ったとき, とても衝撃を受けたのを覚えている。自分の常識を覆されたかのような感覚は初めてだった。また, 留学生の積極的な姿勢を私も見習いたいと感じた。留学したとき, 自分も積極的な姿勢で挑み, もっと多くの人と文化の違いを共有していきたい。そうすれば自分の視野も広げることができると思っている。

留学にはいろいろな種類があり, 国によって費用や期間も変わってくるので, 私は絞り切れ

ないでいたが, 自分が優先すべきものは何なのか, 先生や国際交流センターで相談をしているうちに優先順位を絞ることができた。その中で私が一番重視したのは大学のカリキュラムだった。念願の留学を無駄にすることなく, しっかりとした環境で学びたいと考えている。特に留学をした方々の話を聞くのはとても為になったし, はっきりとしたビジョンを持つことができた。私は初め寮に住みたいと考えていたが, オーストラリアに留学していた先輩の話を聞いて, ホームステイにしようと思いついた。留学をして英語を学ぶのはもちろんだが, その他にもその国でしか体験できないことをできる限りすべてやってみたいと思う。せっかく日本を離れるのだから, 文化の違いを実際に体験してみたいし, 今しかできないことを思い切りやりたい。留学した後のことはあまり深く考えていないが, ワーキングホリデーも視野に入れている。時間が取れる今のうちに海外で働く経験しておきたいと考えているからだ。また, 期間も長く行けるので英語力の向上にもつなげ, 就活にも生かしたい。

4月のころに比べると, 今ではより細かい部分まで留学について考えられるようになった。特に, 自分の周りに留学を経験した先輩がたくさんいるので, 自分一人では分からない鮮明なイメージが浮かび, 不安な部分を減らしてもらえるのがとても助かる。なにより, 同じく留学する人文学部の仲間と不安や楽しみを分か

[†] Kanazawa Seiryō University, Faculty of Humanities, Department of Intercultural Studies

ち合えることでモチベーションを保つことができている。

留学を間近に控えた今、不安に思うこともあるが、それ以上に自分の実力を試したいと思う気持ちやわくわくする気持ちのほうが強い。4月から続けてきた様々な学習や授業が自分の自信につながっていると思うからこそ、向こうで自分がどれだけ成長できるのか楽しみである。出発までの限りある時間で、今までの学習を続けていくとともに、単語や文法などの基本的な部分もカバーしてしっかりとした基礎作りに励んでいきたい。

留学から帰ってきた自分を今はまだはっきりとは想像できないが、英語で日常会話ができるくらいの英語力は身につけていきたい。また、様々な文化に触れ、柔軟な思考や視野を持った人になりたいと思う。